

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2019/12/31	2020/10/30	2020/11/20	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	23,656.62	22,977.13	25,527.37	26,057.00	2020/11/17	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	28,538.44	26,501.60	29,263.48	29,964.29	2020/11/16	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	108.61	104.66	103.86	114.55	2018/10/4	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 新型コロナウイルスのワクチン実用化期待や7 - 9月期GDP (国内総生産) が予想を上回ったことなどから、上昇 ~

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+141.50円 (+0.56%)、TOPIXが+24.17ポイント (+1.42%) となり、新型コロナウイルスのワクチン実用化期待や7 - 9月期GDPが予想を上回ったことなどから、上昇しました。業種別 (東証33業種) でみると、鉱業、不動産業、ゴム製品、海運業など27業種が上昇した一方、精密機器、非鉄金属などの6業種が下落しました。週前半は、①7 - 9月期GDPが予想を上回ったこと、②中国の10月の工業生産が予想を上回ったこと、③米モデルナ社が新型コロナウイルスのワクチン開発を巡り、90%を超える確率で効果があったと発表したことなどから、上昇しました。しかしその後は、ワクチン開発への期待が株価を支える一方で、国内外における新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に歯止めがかからないことから目先の景気悪化懸念が意識され、横ばい圏で推移しました。週末20日は、3連休前の持ち高調整が進んだことや、前日にムニューシン米財務長官がFRB (米連邦準備理事会) に中小企業向け資金供給策の打ち切りを要請したことなども重しとなりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
11月24日	Tue	ドイツ	IFO企業景況感指数	11月	92.7
			消費者信頼感指数	11月	100.9
11月25日	Wed	米国	耐久財受注 (前月比)	10月	+1.9%
			新築住宅販売件数	10月	959千件
			工業利益 (前年比)	10月	+10.1%
11月27日	Fri	中国	ブラックフライデー		

決算発表予定 他 海外 決算発表 : 11/23 アナログ・デバイス、デル、ワイエムウェア、HP、ギャップ、シャオミ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 新型コロナウイルスの感染再拡大への懸念から、徐々に上値の重い展開へ ~

今週の日本株市場は、新型コロナウイルスの感染再拡大への懸念から、徐々に上値の重い展開に転じるとみられています。連休明けの日本株市場は、新型コロナウイルスのワクチン開発への期待や米国の政治的不透明感の後退を好感し、上昇して始まっています。しかし、足元で新型コロナウイルスの新規感染者数が増加する中、国内ではGo to キャンペーンにおいて一部地域の除外が検討されるなど、景気の先行き不透明感が高まっていることは株価の重しに働くとみられています。また、欧米の一部地域で行動制限が強化されており、26日の感謝祭後のブラックフライデー以降に本格化する年末商戦への影響が懸念されます。加えて、ランプ政権の意向により、FRBのパンデミック対策の一部が年内に終了することとなりましたが、追加経済対策協議が難航していることと相まって、政治的不透明感が再燃することにも注意が必要と考えます。これらから、ワクチン開発の進展による中期的な景気や企業業績の改善期待を織り込んだ後は、投資家の様子見姿勢が拡がり、徐々に上値の重い展開になるとみられています。その他の注目材料として、米国では24日の消費者信頼感指数、25日の耐久財受注、新築住宅販売件数、ドイツでは24日のIFO企業景況感指数、中国では27日の工業利益などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
Asahi Life Asset Management Co., Ltd.  
URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第301号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会